

# 街道を歩く

東海道：02 二川—飯村—湊町



〔弥次・喜多〕  
荷物の坊主持ちしつつ、比丘尼に会えたのもつかの間  
"旅人をまねく薄のほくちかと  
爰もよし田の宿のよねたち"

当時架橋が許されていたのは勢多、矢矧、吉田、六郷。吉田大橋は元亀元年(1570)吉田城主酒井忠次が土橋を架けたのがはじまりという。



吉田湊跡



## 吉田神社 (祭神素戔鳴尊)

天治元年(1124)疫病の流行を機に横地氏なる人が勧請したと伝えられる。治承2年(1178)源頼朝が普門寺に止宿した時に家臣に代参させる。三河の守護安藤藤九郎盛長が社殿造営以後今川、徳川の保護を受ける。手筒、大筒花火で知られている。

## 湊町神明社 (祭神天照大神)

創建は7世紀ごろ、このあたりは吉田御園といひ伊勢神宮の荘園であった。戦国時代今川氏真の寄進をうけ1601年に伊奈備前守忠次から社領を安堵され、徳川から代々保護を受けてきた。伊勢神宮の神祭衣祭の御料として、白絹や生糸(赤引糸)を奉納する。御衣祭は有名。



## 吉田宿 (御油宿へ2里22町)

東海道が設置された当初からの宿駅、吉田藩の城下また湊町、信州飯田に向かう別所街道。渥美郡田原方面に向かう田原街道の拠点でもあった。江戸から約73里、街並は東西23町30間、表町12カ町裏町12カ町計24カ町なり通称吉田千軒といわれた。本陣2、脇本陣1、問屋場3、旅籠65(天保14年)。



## 吉田城

永正2年(1505)牧野古白によって築城、当時は今橋城と呼ばれていた。戦国乱世の中今川、武田、徳川の攻防を経て、天正18年(1618)に池田輝政が15万2千石にふさわしい城郭を築いた。江戸時代は城主はいずれも譜代で松平家清に始まり松平信古まで22代続いた。今は昭和29年(1954)再建された鉄櫓(クロガネヤグラ)がある。野面積み石垣は池田輝政時代のもの。

## 安久美神戸神明社 (祭神天照大神)

天慶2年(939)平将門の乱に対し朱雀天皇が伊勢神宮に平定を祈願、成就のお礼に三河国飽海郷を神領として寄進、安久美神戸と称し創建、牧野古白が社殿を築造、今川義元が拡張、家康が社領を安堵、代々の将軍から厚い保護を受けてきた。



本陣跡

## 龍拈寺 (曹洞宗)

享禄元年(1528)吉田城主牧野信成が亡父古白の23回忌法要のため建立。江戸時代は吉田城主を大檀那として迎え栄え悟真寺。神宮寺と並んで吉田3カ寺の一つであった戦災に遭い山門が残る。寺宝は家康の生母於大の実母華陽夫人の画像。



## 悟真寺 (浄土宗)

江戸時代吉田3カ寺の筆頭、明治11年(1878)天皇行幸の時の安在所。日露戦争のときはロシア兵の捕虜収容所にもなる。



## 神宮寺 (天台宗)

比叡山延暦寺の末寺、名刹吉田三カ寺の1つ。願掛け地蔵で知られている。安政元年(1854)の大地震の際幼女の身代わりになったという噂が発端となり願い事をかなえてくれる地蔵尊として信仰を集めた。



## 安海熊野神社

社伝によれば保延2年(1136)鳥羽上皇の命により快円が建立。牧野古白が社殿造営、今川義元が社領寄進。当時は札木町にあったが池田輝政の時城拡張で現在地に移る。江戸末期、境内に魚市場ができ、漁船の安全祈禱で魚商人の保護を受けていた。

東海道：三河・尾張9宿-②

## 飯村一里塚跡



一本松残る

高師原口

街道筋

岩屋観音堂

火打坂

平成 14 年 04 月 20 日

あきやま